

令和8年度 兵庫県農業気象技術情報第2号（6月情報）について

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
水稲	北	<p>1 生育</p> <p>移植後、気温の高低差が大きいものの、本田での生育は順調である。</p> <p>中干しまでは浅水管理又は間断灌水を行い、中干しは遅れないようにする。ガスが湧いた場合は2～3日田干しを行う。</p> <p>（1株当たりの分けつが15～17本になれば中干しを始める。）</p>	
	南	<p>1 生育</p> <p>昨年、登熟期の高温の影響で、種子の休眠が深く、発芽揃いがばらつく事例があったが、現在、苗の生育は順調である。</p> <p>田植え後は活着までやや深水管理し、その後、中干しまでは浅水管理又は間断灌水を行う。ガスが湧いた場合は2～3日田干しを行う。</p> <p>除草剤処理期間中の深水はやむを得ないが、深水にすると徒長しやすいため、活着後の深水には十分注意する。</p>	
全	共	<p>1 病害虫</p> <p>イネ縞葉枯病の発生が続いている地域では、同病の拡大を抑えるため、同病の媒介虫であるヒメトビウンカを、箱粒剤施用等によりの確に予防する。</p> <p>スクミリングガイが発生している地域では、移植前後の対策を行う。詳細は「病害虫・雑草防除指導指針」の参考資料「スクミリングガイの生態と防除対策」(https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/documents/shishinsukumiringogai.pdf)を参照する。葉いもちは、移植後の早期発見に努め、「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に適正に防除する。補植用苗は、葉いもちの発生源になるので、ほ場から早めに持ち出して処分する。兵庫県病害虫防除所ホームページにて公開されているBLASTAM情報(https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/blastam)を参考に葉いもちの初発に注意する</p>	
麦	全	<p>1 生育</p> <p>出穂期はシロガネコムギで平年より5日早く、開花期も早まったことから、成熟期は平年より4日早まった。刈遅れないうよう適期収穫に努める。</p>	<p>1 生育</p> <p>ほ場の排水を徹底する。</p> <p>子実水分25%を目安に適期収穫に努める。</p> <p>収穫作業をあまりに急ぎすぎて、コンバインの扱胴^{こぎどう}回転数を上げすぎないようにする。</p> <p>湿害による枯熟れ、倒伏等があれば、刈分けを行う。</p>

作物 地域	栽培上の留意点	対 応 策
	<p>2 病害虫</p> <p>現在の発生状況は、うどんこ病、さび病類は平年並の発生である。赤かび病は全般的には平年よりやや少ない発生である。今後、成熟期となる品種についてはほ場巡回調査を行い、発生状況を確認しておく。</p>	<p>2 病害虫</p> <p>赤かび病の拡大、カビ毒粒の混入を防ぐため、適期収穫に努めるとともに、見つかった場合は、収穫期の刈分け指示や荷受け時の仕分けなどを行う。</p> <p>荷受け時の赤色粒で粒自体に光沢があり、表面がなめらかなもの（シワがない）は、アントシアン粒であることが多いのでよく確認する。</p> <p>詳細は「稲・麦・大豆作等指導指針」を参照する。</p>
大豆 全 県 共 通	<p>1 栽培管理</p> <p>排水対策を十分に行い、ほ場条件が良い時に播種できるよう準備する。</p> <p>2 病害虫</p> <p>健全種子を播種する。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>額縁明きょや排水溝を必ず設置し、排水対策を徹底する。</p> <p>ほ場条件が良い時に適期播種を行う。</p> <p>2 病害虫</p> <p>排水対策をしっかりと実施する。</p> <p>播種前後の薬剤処理により、アブラムシ類等の防除を図る。</p>
キ ャ ベ ツ 全 県 共 通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 降雨によるほ場の滞水を避ける。</p> <p>(2) 降雨がなく土壌の乾燥が続く場合、球内にチップバーンを生じることがあるので注意する。</p> <p>(3) 高温期は降雨等により球が急激に肥大し、裂球しやすい。</p> <p>2 病害虫</p> <p>フェロモントラップ調査では、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガは多い傾向で、コナガは平年並、ヨトウガはやや少なかった。コナガは作物上でも確認されているため適切に防除</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 畝間の均平化や落水口への確実な連結により排水性を高める。</p> <p>(2) 10日以上降雨がない場合、畝間灌水等を行う。作土が浅いほ場では特に土壌の乾燥に注意する。</p> <p>(3) 球の締まり具合を確認しつつ順次収穫し、とり遅れないようにする。</p> <p>2 病害虫</p> <p>薬剤防除は「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に適正に実施する。</p>

作物 地域	栽培上の留意点	対 応 策										
	<p>する。ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガの定着が懸念されるので幼虫の発生に注意する。</p> <p>ネギアザミウマは、たまねぎで多発生が確認されている。キャベツほ場が隣接する場合にはキャベツ結球内部の食害がみられることがあるので注意する。</p> <p>6月中旬以降、気温が高く、定期的な降雨があることが予想されているため、病虫害の発生に注意する。</p>											
果 樹 全 県 共 通	<p>1 生育</p> <p>下表のとおり、昨年より早めに推移しているが、樹種により差がある。</p> <p style="text-align: center;">樹種別の生育状況</p> <table border="1" data-bbox="327 1187 1337 1429"> <tbody> <tr> <td>ブドウ※¹</td> <td>開花期は昨年より4日早く、平年に比べ3日早い</td> </tr> <tr> <td>クリ※¹</td> <td>開花期は昨年より3日早く、平年に比べ3日早い</td> </tr> <tr> <td>ナシ※²</td> <td>開花期は昨年より6日早く、平年に比べ4日早い</td> </tr> <tr> <td>イチジク※¹</td> <td>発芽、展葉ともに平年に比べ5日早い</td> </tr> <tr> <td>温州ミカン※³</td> <td>開花期は昨年より12日早く、平年に比べて8日早い</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 加西市 ※2 朝来市 ※3 南あわじ市</p> <p>2 栽培管理</p> <p>(1) 樹勢や生育状況に応じた着果管理に留意する。</p> <p>(2) 果実肥大や着色を促すための栽培および土壌管理に留意する。</p> <p>(3) ハウス栽培は、昼間の温度が高温になりすぎないように留意する。</p> <p>(4) ナシ（北但地区）では受精不良や霜害、降雹の影響に注意した結実管理を行う。</p>	ブドウ※ ¹	開花期は昨年より4日早く、平年に比べ3日早い	クリ※ ¹	開花期は昨年より3日早く、平年に比べ3日早い	ナシ※ ²	開花期は昨年より6日早く、平年に比べ4日早い	イチジク※ ¹	発芽、展葉ともに平年に比べ5日早い	温州ミカン※ ³	開花期は昨年より12日早く、平年に比べて8日早い	<p>1 生育</p> <p>生育状況に応じた栽培管理を行う。生育のバラツキが大きい場合は、新梢管理や結実管理で調節する。</p> <p>結実不良の樹は、摘果時に着果量確保に努める。</p> <p>2 栽培管理</p> <p>(1) 樹勢が弱い場合は、着果量を減らす。</p> <p>(2) 土壌が乾燥する場合は灌水を行う。特に苗木や幼木は、生育を促すため乾燥防止に努める。</p> <p>(3) 換気により温度上昇を防ぐ。</p> <p>(4) 変形果や障害果を見極めた摘果作業と、樹勢に応じた着果量の確保を行う。</p>
ブドウ※ ¹	開花期は昨年より4日早く、平年に比べ3日早い											
クリ※ ¹	開花期は昨年より3日早く、平年に比べ3日早い											
ナシ※ ²	開花期は昨年より6日早く、平年に比べ4日早い											
イチジク※ ¹	発芽、展葉ともに平年に比べ5日早い											
温州ミカン※ ³	開花期は昨年より12日早く、平年に比べて8日早い											

作物 地域	栽培上の留意点	対 応 策
	<p>3 病害虫</p> <p>現時点では、ブドウでは目立った病害の発生は認められていないが、ナシでは黒斑病の発生が平年並となっている。6月中旬以降、気温が高く、定期的な降雨があることが予想されている。これからの病害の発生に注意する。</p> <p>果樹カメムシ類のフェロモントラップ調査では5月の誘殺数が多い。今後、活動がさかんになるため、果樹園での発生に注意する。</p>	<p>3 病害虫</p> <p>最新の病害虫発生予報を確認し、発生が懸念される病害虫の発生動向に注意し、適切な防除に努める。薬剤については「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に適正に防除する。ナシ黒斑病は袋掛け前と梅雨期の防除を徹底する。</p> <p>果樹カメムシ類の防除についての詳細は令和8年5月20日発表の「令和8年度病害虫発生予察防除情報第1号」 https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1621)を参考に にする。</p>

◎ 水稲・麦・大豆の栽培については、「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病害虫発生予察情報」及び「病害虫・雑草防除指導指針」を参考にすること。

※ 本情報は、6月8日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1)近畿地方の向こう1か月予報

近畿地方 1か月予報 (06/06~07/05)		
2026年06月04日14時30分 大阪管区気象台 発表		
向こう1か月 06/06~07/05	天候	近畿日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率50%です。
	降水量	降水量は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。
	日照時間	日照時間は、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。
1週目 06/06~06/12	気温	1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。
2週目 06/13~06/19	気温	2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。
3~4週目 06/20~07/03	気温	3~4週目は、高い確率60%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	向こう1か月 06/06~07/05	10 40 50
		1週目 06/06~06/12	20 40 40
		2週目 06/13~06/19	20 40 40
		3~4週目 06/20~07/03	10 30 60
降水量	近畿太平洋側	向こう1か月 06/06~07/05	20 40 40
	近畿日本海側	向こう1か月 06/06~07/05	30 30 40
日照時間	近畿太平洋側	向こう1か月 06/06~07/05	40 40 20
	近畿日本海側	向こう1か月 06/06~07/05	40 30 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

(2)近畿地方の向こう3か月予報

近畿地方 3か月予報 (06月~08月)		
2026年05月19日14時00分 大阪管区気象台 発表		
06月~08月	気温	平均気温は、高い確率70%です。
06月	天候	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率60%です。
07月	天候	期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率60%です。
08月	天候	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率60%です。

気温、降水量の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	06月~08月	10 20 70
		06月	10 30 60
		07月	10 30 60
		08月	10 30 60
降水量	近畿地方	06月~08月	30 30 40
		06月	30 30 40
		07月	30 40 30
		08月	30 40 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い（少ない・平年並・多い）の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間（1991～2020年）における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「兵庫県病虫害防除所（病虫害発生予察情報）」
<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp>
- ・「病虫害・雑草防除指導指針」
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>
- ・「兵庫県総合防除計画」
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」
https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農林水産部農産園芸課農産・野菜班（主作・機械担当） TEL 078-362-3494
- 農産・野菜班（野菜担当） TEL 078-362-4013
- 花き果樹班 TEL 078-362-9218

技術内容に関すること

- ・兵庫県立農林水産技術総合センター
 - 企画調整・経営支援部 TEL (0790)47-2435
 - 農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790)47-2410
 - 農業技術センター 病虫害部 TEL (0790)47-1222
 - 北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079)674-1230
 - 淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799)42-4880